

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム 2023年度事業実施内容とその評価

項目	事業	中長期計画の 数値目標 (評価指標) 等	2023年度当初事業計画	2023年度実施内容	コンソーシアムの評価
<b>目標 I 各大学間の連携の推進</b>					
課題① 教育の質の保証・向上 (授業内容等の改善)	共同FD (ファカルティ・ディベロップメント)	年延べ30名以上の参加	第3回「Oxford EMI Course 千代田区キャンパスコンソ」を含む、共同ファカルティ・ディベロップメントを企画し実施する (年1回以上)。  上記を合計して年延べ30名以上の参加を目標とする。	第3回「Oxford EMI Course 千代田区キャンパスコンソ (公開FD)」 8月25日から9月1日までオンラインで開催した。オクスフォードEMI講師陣と連携し、千代田区キャンパスコンソ以外からも参加を募る公開プログラムとして位置づけた。千代田区キャンパスコンソから5名、コンソ以外から8名の教員が参加した。  「第25回法政大学FDワークショップ」(コンソ共催) 「高等教育現場における生成AIの利用について考える」をテーマとして9月1日にオンラインで開催した。教職員54名が参加した。	計画した事業を実施し、数値目標を達成できた。
課題② 教育の質の保証・向上 (教育研究活動等の適切かつ効果的な運営)	共同SD (スタッフ・ディベロップメント)	年延べ50名以上の参加	大学間職員人事交流制度を利用した職員の派遣・受入れを実施する (年1回)。  その他、共同スタッフ・ディベロップメントを企画し実施する。  上記を合計して年延べ50名以上の参加を目標とする。	「千代田区キャンパスコンソ特別研修職員制度による職員合同研修」 「激動の時代の大学と職員の役割～職員が拓く大学の未来」をテーマとした講演視聴とディスカッション、区内の小中学生向けの学びイベントを企画するグループワーク、共立女子大学・共立女子短期大学が主催する地域の小中高校生を対象とした教育支援活動の運営サポートなどをプログラムとして、7月～9月の3ヶ月間にわたり、2021年度・2022年度に続き実施した。職員10名が参加した。  SD講演会「激動の時代の大学と職員の役割～職員が拓く大学の未来」 千代田区キャンパスコンソの専任教職員を対象に、吉武博通学校法人東京家政学院理事長による講演会を8月4日に開催した。73名の教職員が参加した。	計画した事業を実施し、数値目標を達成できた。
課題③ 各大学間の学生の交流の活性化	学生共同ボランティア	年間延べ100名以上参加	学生合同ボランティアを含む正課・正課外のプログラムを企画し実施する。 <年間延べ100名以上参加>	正課・正課外プログラムの開催 千代田区キャンパスコンソが主催・共催・協力等で関わるボランティアを含む正課・正課外の20件のプログラムを開催し、合計延べ533名の学生が参加した。 「エコキャップ企画回収徹底説明!～ペットボトルキャップがワクチンに変わるまで～」 「Blind Soccer Project ～パラスポーツを体験しよう～」 「「学習」の貧困～私たちにできる事～」 「富士山森林保全ボランティア (5月)」 「セラビードッグとのつながり」 「外来魚・外来魚駆除について考えよう」 「発達障害について考える会」 「バリアフル社会～みんなが笑って暮らせる社会を目指して～」 「若者の社会サンカク+地域コミュニティ」 「神田古書店街写真プロジェクト」 「千代田さくら祭り2024公式ガイドMAP製作プロジェクト」 「千代田区 MIYAGE PROJECT」 「ぶらちヨダ シリーズ3」 「「もしも」に備える防災キャンプ」 「富士山森林保全ボランティア (10月)」 「共生社会をダウン症から考える～ダウン症の子と一緒に大学祭をまわろう!～」 「市ヶ谷キャンパスで災害が起きたら?大学生にできること、考えよう!」 「洋服リサイクル企画」 「手話講座特別編」 「STOPフードロス ～私たちにできることとは～」	計画した事業を実施し、数値目標を達成できた。

項目	事業	中長期計画の 数値目標 (評価指標) 等	2023年度当初事業計画	2023年度実施内容	コンソーシアムの評価
課題④ 多様な学びの提供	単位互換の実施	単位互換科目の履修者数（前年度比5%増）	<p>単位互換科目受講者数増の施策を検討し実施する。</p> <p>複数大学による共同開講授業を1科目以上開講する。</p> <p>大学連携による新たな共同開講授業の実現に向けた検討を行う。</p>	<p><b>単位互換</b> 122名の学生が本制度を利用して他大学の授業を受講した。2022年度の84名から1.45倍となった。受講者数は制度を開始した2019年度（25名）から毎年度増加している。 281ある受講対象科目のうち、実際に学生が受講した数は84科目であった。2022年度の64科目から1.31倍となった。 2023年3月にオンラインで実施した単位互換説明会を動画コンテンツ化し、オンデマンドで視聴できるようした。また、単位互換科目受講生を対象としたアンケートを行い、制度の検証・改善に向けた検討に利用したほか、より多くの学生に単位互換の魅力を理解してもらえるように、寄せられた「受講者の声」を受講案内のチラシ等に掲載した。</p> <p><b>共同開講授業</b> 複数大学が授業を編成・開講する共同開講授業として、「現代政策学特講Ⅰ（千代田区）」「地域文化理解Ⅰ」を単位互換科目として開講した。千代田区や都内にある複数の企業からの協力も得て座学とフィールドワークから構成される授業を夏季集中の形態で実施した。</p> <p><b>サティフィケートプログラムの開始</b> 単位互換制度の枠組みを利用して、法政大学のSDGs科目群の科目を履修するなどの条件を充たした法政大学以外の学生に対して「法政大学SDGsサティフィケート」を交付することを2023年度から開始した。</p>	<p>単位互換制度は年々受講者が増え、安定的な制度運用のための情報を蓄積することができつつある。</p> <p>共同開講授業については、計画のとおり実施できた。</p> <p>大学連携による新たな共同開講授業の実現に先立ち、単位互換制度の枠組みを利用してサティフィケートプログラムを開始することができた。</p>
<b>目標Ⅱ 各大学と千代田区（関係団体等を含む）との連携の推進</b>					
課題⑤ 千代田区への研究成果の還元	「千代田学」事業	年5件以上採択	<p>「千代田学」事業を通して研究成果を還元する。＜年5件以上採択＞</p> <p>区内在住・在勤者等を対象とした研究成果を還元する公開講座を大学間で連携して行う。</p>	<p><b>「千代田学」事業</b> 2023（令和5）年度の「千代田学事業」に、大学ごとの単独事業として4件（3大学）が、また、複数大学による共同提案事業として「自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究（3）地域連携を視野に入れた帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発」（5大学・1短期大学）が採択された。共同提案事業は、千代田区キャンパスコンソの共同研究として位置付け、その研究成果を千代田区キャンパスコンソのウェブサイトで公開したほか、千代田区のコミュニティサイトでも公開され、ちよだコミュニティラボライブで発表（2023年3月）した。 2024（令和6）年度は、「大規模災害時における学生ボランティアの育成とネットワーク化に関する研究」が採択された。</p> <p><b>共同公開リレー講座「ちよだで学ぶ2023ー知ると未来が楽しくなるー」</b> 4～11月に各大学・短期大学の合計10の公開講座をリレー形式で開催した。</p>	<p>計画した事業を実施し、数値目標を達成できた。</p>
課題⑥ 地域コミュニティの活性化	地域向けイベント等開催又は参画	地域在住・在勤・在学者 延べ1,000名以上の参加又は年間5件以上の開催又は参画	<p>研究成果の還元などを通じた、地域コミュニティ活性化に資する事業を企画し実施し又は参画する。 ＜地域在住・在勤・在学者延べ1,000名以上の参加 又は 年間5件以上の開催又は参画＞</p>	<p><b>地域向け・地域連携型イベント・講座</b></p> <p>千代田区キャンパスコンソが主催・共催・協力・協賛・後援する、地域向けまたは地域と連携したイベントや講座を開催した。これらには、学生等を含め合計で850名を超える参加があった。 「神田古書店街写真プロジェクト」 「千代田さくら祭り2024公式ガイドMAP製作プロジェクト」 「千代田区 MIYAGE PROJECT」 「ぶらちヨダ シリーズ3」 共同公開リレー講座「ちよだで学ぶ2023ー知ると未来が楽しくなるー」 「大妻さくら祭り2024」</p> <p><b>千代田区主催「令和5年度防災メニューグランプリ」への協力</b> 災害時に簡単に作ることができ、おいしく栄養管理ができるメニューを公募する千代田保健所のイベントの企画・運営に協力した。千代田区キャンパスコンソの「千代田学共同提案事業」の研究者が審査員として参加し、東京家政学院大学を会場として開催された表彰式にあわせて実施したため入賞メニューの試食会では、同大学の学生教職員が調理を行った。</p>	<p>計画した事業を実施し、数値目標を達成できた。</p> <p>共同公開リレー講座には合計10の講座に103名の参加（事後アンケート回答）があった。</p>

項目	事業	中長期計画の 数値目標 (評価指標) 等	2023年度当初事業計画	2023年度実施内容	コンソーシアムの評価
課題⑦ 地域の教育支援	地域向け共同公開講座等の実施	年1回以上実施	地域の教育に資する共同公開講座等の事業を実施する。＜年1回以上実施＞  各大学と千代田区の教育リソースの共有や教育連携を検討する。	共同公開リレー講座「ちよだで学ぶ2023ー知ると未来が楽しくなるー」 4～11月に各大学・短期大学の合計10の公開講座をリレー形式で開催した。  災害時の避難所運営ゲーム体験会／キッズ対象震災学習ワークショップ 関東大震災から今年で100年目の節目となる9月1日に千代田区在住・在勤・在学者、小中高生を対象とした震災時の行動についてのワークショップを共立女子大学・共立女子短期大学で開催した。  キッズ対象環境学習ワークショップ 「廃棄される食材の解決案について考えよう」をテーマに9月30日に共立女子大学・共立女子短期大学で開催した。  書き初め勉強会 小学生を対象とする毛筆による書き初めの実践的な勉強会を1月6日に二松学舎大学で開催した。学生13名がボランティアとして参加した。  連携に関する意見交換 2023年度に10回開催した千代田区キャンパスコンソ運営委員会において、各大学と千代田区の様々な連携について意見交換を行った。	計画した事業を実施し、数値目標を達成できた。
<b>目標Ⅲ 各大学と地域産業界等との連携の推進</b>					
課題⑧ 学生による地域産業振興支援	地域産業界との連携教育プログラムの実施	年1企業以上との実施	地域の産業振興に資する事業（連携教育プログラム等）を企画し実施する。＜年1回以上との実施＞	「千代田さくら祭り2023公式ガイドMAP」製作プロジェクト 2021年度・2022年度に続き、千代田観光まちづくり実行委員会とのコラボレーション事業として、祭り時の来訪者が区内を回遊し地域の魅力に接することができる仕掛けづくりをテーマに、学生目線によるガイドMAPの企画・編集・ページ作成を行った。千代田区商工業連合会との共催としてとして位置づけたこの地域振興事業には3名の学生が参加した。  千代田区 MIYAGE PROJECT 千代田区内の既存の土産を広めるとともに、新しい土産の開発を通じて地域の魅力を再発見し観光客や地元の人々に伝えることを通して区内商店会の活性化を図るプロジェクトを千代田区商店街連合会と連携して千代田区商店街等産学連携促進事業として実施した。学生18名の学生が参加した。  ぶらちヨダ シリーズ3 千代田区の文化資源を学生目線で活性化することをテーマとする産学連携事業として、2018年度・2019年度に続く3回目を実施した。秋葉原のニュービジネス（ものづくりワーキングスペース）、メイドカフェ、美術館を取材対象に、「調べて、行って、聞いてきた」特集レポートページを作成した。千代田区商工業連合会と連携して千代田区商店街等産学連携促進事業として実施した。学生15名が参加した。	計画した事業を実施し、数値目標を達成できた。
<b>目標Ⅳ 各大学と地方の大学との連携の推進</b>					
課題⑨ 地方の大学との学生交流の活性化	相互参加型教育プログラムの実施	年1回実施	地方の大学の学生が参加する授業を単位互換科目として開講する。＜年1回実施＞	単位互換制度を利用した学生交流 沖縄県内・京都府内の大学の学生とともに受講するフィールドワークの単位互換科目を3科目開講した。「現代政策学特講Ⅰ（千代田区）」には24名（うち沖縄県内学生は6名）、「現代政策学特講Ⅱ（沖縄）」には19名（同4名）、「地域文化理解Ⅰ」には35名（うち京都府内学生5名）の学生が受講した。	計画した事業を実施し、数値目標を達成できた。

項目	事業	中長期計画の 数値目標 (評価指標)等	2023年度当初事業計画	2023年度実施内容	コンソーシアムの評価
<b>目標Ⅴ 千代田区キャンパスコンソの運営基盤強化（千代田区キャンパスコンソが必要と認めた事項）</b>					
課題⑩ 積極的かつ適切な情報公開	共同IRの実施と公表	年3項目以上分析・公表	共同IR報告書を作成し公開する。 <年3項目以上分析・公表>	<p>「【共同IR】数字で見る千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム（2023年度）」の作成・公開準備 2024年5月の公表に向けて準備を開始した。 2020年度・2021年度・2022年度は年度途中（当該年度9月）に作成・公表していたが、2023年度は、原則として、4月～3月の期間を単位として作成することとした。</p> <p>千代田区キャンパスコンソのウェブサイトでの情報発信 2022年12月にリニューアルしたウェブサイト上で、中長期計画、年度計画、年度事業報告、共同IR報告書、公開講座などの個々のイベントの参加者案内・実施報告など、様々な情報を掲載している。</p>	計画した事業に取り組んでいる。
課題⑪ 地域リスクマネジメント	災害時連携体制の検討又は事業実施	年1回以上の検討・事業実施	教育研究や管理運営に対する各種リスクへの対策を検討するとともに、リスクマネジメント体制を検証し、必要に応じて改訂を行う。	<p>リスク発生情報共有のための連絡訓練 「リスクマネジメント体制に関する申し合わせ」に基づきリスク発生情報共有のための連絡訓練を9月に大学間で実施した。</p> <p>防災をテーマにした取組みの実施 防災や災害対応をテーマにした以下の取組みを実施した。</p> <p>千代田学共同提案事業「自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究（3）地域連携を視野に入れた帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発」（2023年4月～2024年3月） 千代田区主催「防災メニューグランプリ」への協力（11月表彰式） 「災害時の避難所運営ゲーム体験会／キッズ対象震災学習ワークショップ」（9月） 「キッズ対象環境学習ワークショップ」（9月） 「「もしも」に備える防災キャンプ」（10月） 「震災パネル展示（千代田区における過去の自然災害記録）」（9月・10月） 「千代田区における過去の自然災害～安政大地震と関東大震災～」展（12月） 「帰宅困難者受入支援施設運営ゲーム（KUG）」体験会（12月・2月）</p>	計画した事業を実施し、数値目標を達成できた。
課題⑫ 継続的検証体制の構築	事業取組み状況・効果の評価	①コンソ主催連携事業参加者の参加満足度（各事業で90%以上） ②単位互換科目の履修者数（前年度比5%増）	事業取組み状況・効果について、①コンソ主催連携事業参加者の参加満足度（各事業で90%以上）、②単位互換科目の履修者数（前年度比5%増）を指標として評価を行う。また、中長期計画の検証と中間見直しを行う。	<p>2023年度に実施したコンソ主催等事業9件の参加者アンケートにおける満足度は、90.9%か～100%の範囲であった。</p> <p>単位互換科目の履修者数は、5大学・2短期大学で122名であった。2022年度の84名から45%増となった。なお、受講者数は制度を開始した2019年度（25名）から毎年度増加している。</p> <p>中長期計画の検証を行い、本項目の成果指標「①コンソ主催連携事業参加者の参加満足度（前年度比5%増）」を「①コンソ主催連携事業参加者の参加満足度（各事業で90%以上）」に、「②単位互換提供科目に占める実履修科目の割合（前年度差5%増）」を「②単位互換科目の履修者数（前年度比5%増）」に改め、2023年度から実施した。</p>	<p>コンソ主催連携事業参加者の参加満足度はいずれの事業も90%以上であり、数値目標を達成した。</p> <p>単位互換科目の履修者数は前年度比で約45%増であり、数値目標を達成した。</p>

項目	事業	中長期計画の 数値目標 (評価指標) 等	2023年度当初事業計画	2023年度実施内容	コンソーシアムの評価
<b>その他の事項（千代田区キャンパスコンソが必要と認めた事項）</b>					
— 千代田区キャンパスコンソの広報・調査	共同大学説明会・ニーズ調査	—	—	7月～8月に、東京家政学院大学、大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学のオープンキャンパス時に、千代田区キャンパスコンソの共同大学説明会を合計3回開催した。その際、来訪者（高校生・その保護者等）等を対象として、進路に関する情報収集の手段の内容や、大学間で連携して実施している取組みのうち参加してみたい内容等についてアンケートを行った。	大学間連携・地域連携に関するイメージや千代田区キャンパスコンソに期待することについて地域の声を把握することができた。
— 地域自治体・産業界・大学間のイベント	千代田区キャンパスコンソシンポジウム	—	—	12月20日に「千代田区キャンパスコンソシンポジウム～人口減少社会の中の地域と大学連携～」を開催した。11月に新たに専修大学が加盟したことも受け、6大学・2短期大学の学長・副学長・理事長のパネルディスカッション「人口減少社会の中の地域と大学連携のあり方」、千代田区長による基調講演「千代田区が大学に期待すること」、千代田区キャンパスコンソの取組み紹介、大学連携・地域連携の取組みに参加した学生による活動報告をプログラムとするシンポジウムには、合計約90名の区内在住・在勤者、千代田区キャンパスコンソの学生教職員が参加した。また、当日の収録動画を2月に公開した。	大学間連携・地域連携に関するイメージや千代田区キャンパスコンソに期待することについて地域の声を把握することができた。
— 新たな連携大学の参加	専修大学の参加	—	—	2023年11月に専修大学が千代田区キャンパスコンソに加わった。参加大学・短期大学は6大学・2短期大学となった。	より多様な学びを提供する環境・条件が整備され、大学間連携・地域連携が一層推進されることが期待できる。

千代田区の意見
<p>2023年度は新型コロナウイルス感染症の制約から解放され、社会経済活動が従前のように展開される状況にもあり、順調に数値目標を達成したものと考えられます。本区との取り組みについては特に、「令和5年度防災メニューグランプリ」として、その企画から審査、さらには学生からの応募など、コンソ参加各大学のご協力により、新たな防災に対する普及啓発の事業として非常に高い成果が得られました。また防災に関しては他にも、当区事業である千代田学の共同提案事業として「自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究」の3か年目の取り組みを行うなど、コンソーシアム各大学が災害対策においても連携を深め合っていることが確認されました。また12月に開催した、コンソ5周年と専修大学の加入を記念したシンポジウムにおいては、当区長も基調講演の時間を与えられ、千代田区と各大学の連携のこれからのことについて意見を共有できる貴重な機会となりました。今後も本区の地域課題の解決にむけ、連携協力を継続して進めていただくとともに、コンソーシアムのさらなる発展を期待するものです。</p>

千代田区商工業連合会の意見
<p>2023年度は、2021年度、2022年度に続き千代田観光まちづくり実行委員会と連携して「千代田さくら祭り2024公式ガイドMAP製作プロジェクト」に取組みました。コンソーシアムの学生に千代田さくら祭り2024ガイドMAPの特集ページ「ちよだ よりみちさんぽ」を製作してもらい、区内の科学技術体験施設、ホテル、区内に56か所ある坂など、魅力あるスポットを学生目線で発信するという特色をガイドMAPに加えることができました。また、美術館やものづくりコーワーキングスペースなどを取材し記事を作成する「ぶらちヨダ フェーズ3」、区の土産を通してマーケティングやブランディングを学ぶ「千代田区 MIYAGE PROJECT」を実施しました。これらの取組みに参加した30人を超える学生は、千代田区のことを詳しく知るだけでなく、取組みの企画・調査・取材・執筆・デザイン・タイムマネジメントなど、専門スタッフのアドバイスを受けながら主体的に取り組むことを通して、地域振興活動の実際を知っていただけたのではないのでしょうか。</p> <p>千代田区には様々な文化・歴史資産があります。今後も多くの学生に、地域の活動に参画し地域の魅力に触れてほしいと思います。同時に、地域の課題を理解してもらいその課題と一緒に考えてもらえる学びの機会を提供したいと思います。コンソーシアムには、引き続き、千代田区商工業連合会、学生・教職員、千代田区、地域住民などが連携して、魅力ある地域づくりに資する取組みを展開していくことを期待しています。</p>